

漁海況速報

6-No. 36

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和6年11月29日～12月 5日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

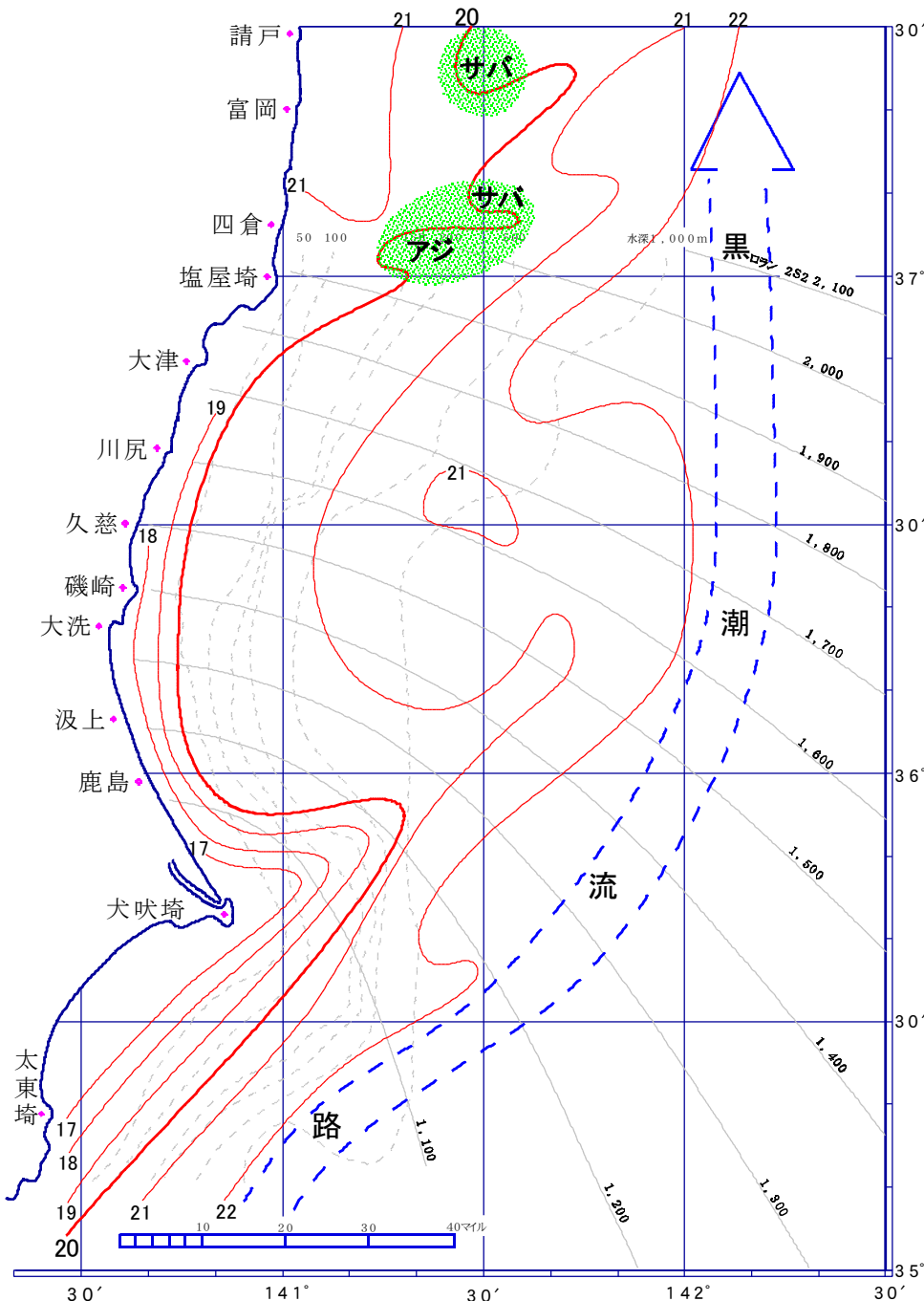
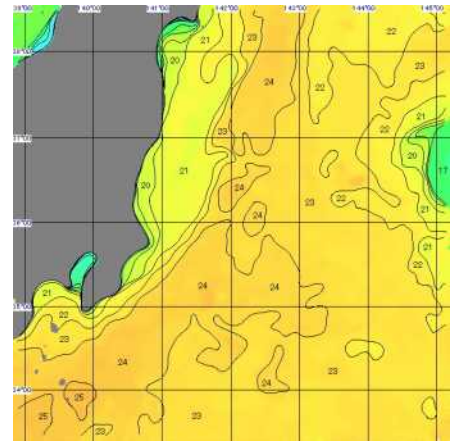
那珂湊定地水温 (°C)

日	年 令 6	令 5	平年
11/29	18.5	16.6	15.4
30	18.0	16.6	15.3
12/1	17.8	16.1	15.1
2	17.6	15.7	15.0
3	17.7	15.5	14.9
4	17.4	15.4	14.8
5	17.5	15.5	14.7
平均	17.8	15.9	15.0

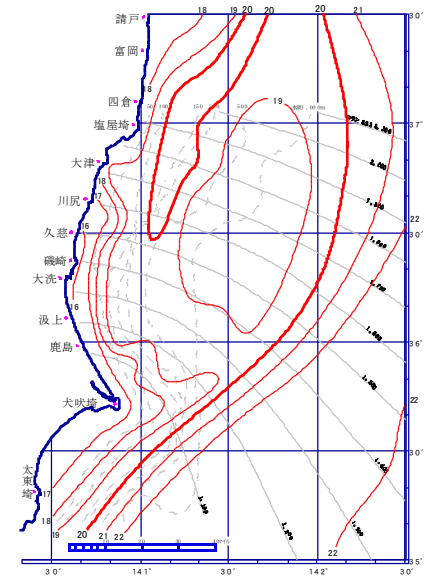
30年平均: 1991~2020年

令和6年11月29日～12月 5日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和5年12月 1日～12月 7日

【海況図】

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東25マイル付近を北北東に流れ、
37°30' N 142°10' E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、17～20℃台の水温となっている。

漁況の特徴

6 - No. 36

属地、単位＝四捨五入

11/28～12/4

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	久慈浜丸小	5,982	1,320	7,896,668	40
		久慈町	6,806	1,247	8,484,309	28
		那珂湊	126	1,050	132,250	
		大洗町	40,985	1,150	47,114,444	189
		はさき	9,749	1,392	13,574,800	60
ヒラメ	小底5t以上	平潟	17	1,439	24,173	
		那珂湊	10	2,307	23,760	
	その他釣り	平潟	90	2,360	211,693	
		川尻	39	1,852	72,430	
	大型定置網	会瀬	13	1,559	19,490	
		久慈浜丸小	4	1,500	6,450	
	大型定置網	久慈町	4	1,408	5,070	
		那珂湊	87	1,912	166,340	
マコガレイ	小底5t以上	大洗町	1	1,300	1,820	
		会瀬	53	1,299	68,953	
タイ類	小底5t以上	平潟	7	749	5,091	
		那珂湊	1	1,800	2,160	
スズキ	小底5t以上	平潟	1,231	338	416,358	
		久慈町	36	238	8,580	
	大型定置網	那珂湊	105	658	68,918	
		会瀬	2	1,000	1,500	
アナゴ	小底5t以上	久慈町	2	1,000	1,500	
		会瀬	300	731	219,214	
アンコウ	小底5t以上	会瀬	15	828	12,745	
		平潟	161	383	61,578	
タラ類	小底5t以上	久慈町	23	791	17,800	
		那珂湊	26	1,066	28,030	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	37	1,151	42,825	
		久慈町	95	723	68,490	
フグ類	小底5t以上	那珂湊	10	1,035	9,940	
		平潟	5	140	700	
サワラ	その他釣り	那珂湊	3	240	672	
		平潟	144	1,046	150,328	
イセエビ	固定式刺網	久慈町	3	284	795	
		那珂湊	25	908	22,340	
スルメイカ	小底5t以上	会瀬	5	1,123	5,503	
		平潟	12	2,285	26,506	
ヤリイカ	小底5t以上	那珂湊	19	1,543	28,860	
		延縄	74	3,034	225,390	
マダコ	小底5t以上	その他釣り	1	1,000	1,200	
		久慈浜丸小	13	1,875	24,940	
マアジ	小底5t以上	久慈町	89	1,891	168,320	
		那珂湊	158	1,803	284,980	
サバ	小底5t以上	大洗町	9	1,778	16,000	
		会瀬	29	4,929	141,450	
ブリ類	小底5t以上	平潟	500	420	209,880	
		久慈町	278	1,043	289,900	
カツオ	その他釣り	那珂湊	124	1,364	169,530	
		平潟	270	340	91,800	
マサバ	小底5t以上	久慈町	222	1,060	235,050	
		那珂湊	57	1,207	69,300	
サバ	小底5t以上	平潟	105	748	78,285	
		那珂湊	48	1,581	76,510	
サバ	小底5t以上	その他釣り	56	1,128	62,937	
		平潟	2	800	1,840	
サバ	小底5t以上	会瀬	24	1,531	37,210	
		那珂湊	85	2,024	172,660	
サバ	小底5t以上	大洗町	446	126	56,332	
		会瀬	26	248	6,350	
サバ	小底5t以上	那珂湊	74	401	29,725	
		会瀬	6	597	3,522	
サバ	小底5t以上	平潟	480	29	14,000	
		久慈町	159	74	11,815	
サバ	小底5t以上	那珂湊	827	50	41,440	
		会瀬	33	179	5,936	
サバ	小底5t以上	平潟	4	113	429	
		那珂湊	2	1,500	2,700	
サバ	小底5t以上	その他釣り	6	746	4,402	
		平潟	11	300	3,240	
サバ	小底5t以上	久慈浜丸小	97	173	16,770	
		久慈町	373	340	126,984	
サバ	小底5t以上	那珂湊	8	495	3,860	
		大洗町	807	330	266,324	
カツオ	その他釣り	平潟	35	1,480	52,241	

◎ まき網

(漁獲は1投網当り)

マイワシ・・・岩手久慈の東南東15マイル付近から気仙沼の南東15マイル付近で1～70トン、良い船で100～420トンの漁獲。

サバ・・・釜石の南東10マイル付近で25トン(1ヶ統)、請戸の東25マイル付近で5～110トン、塩屋崎の東北東30マイル付近から塩屋崎の東20マイル付近で1～50トンの漁獲。

アジ・・・塩屋崎の東20マイル付近で1～6トンの漁獲。

イナダ・・・気仙沼の東北東15マイル付近で5トン(1ヶ統)の漁獲。

◎ 小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から鹿島地先で3～705kg、波崎地先で2～326kgの漁獲。

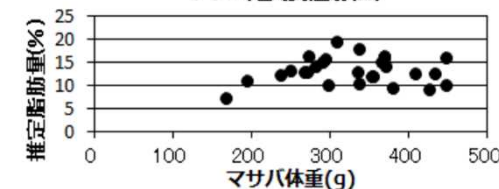
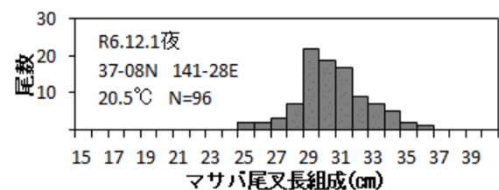
カエリ・・・大津地先から鉾田地先で4～14kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先でヒラメ5～40kg、久慈浜地先から大洗地先でヒラメ1～10kg、サワラ2～30kg、イナダ2～50kgの漁獲。

☆塩屋崎沖でサバ類を漁獲(まき網)

塩屋崎沖でサバ類の漁場が形成され、12月2日朝、1,510トンが水揚げされました。マサバ主体で、サイズは尾叉長25～36cm、モード29～31cm、体重150～550g、250～300g主体、脂肪は7～19%でした。



注 延隻数・銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

今季の渡りダコの来遊は遅れ、漁獲量は昨年並みになる見込み

(令和6年漁期のマダコの来遊・漁況予測)

1. マダコの生態と茨城県での漁業

茨城県で漁獲されるマダコは、本県沿岸で成長した「地ダコ」と本県より北で成長し、産卵のために秋から冬にかけて外房へ向けて南下する「渡りダコ」がいます。

本県では、12月から翌年2月頃までがマダコ漁の盛漁期で、主に「たこつぼ漁」で漁獲されます。特に鹿島灘での漁獲量が多く、鹿島灘で漁獲されたタコは「鹿島だこ」と称され、地域の特産品として知られています。

2. 昨年漁期の茨城県での漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響され、過去20年間の盛漁期（12月～翌年2月）の漁獲量は13～219トンと大きく変動しています。

昨年の盛漁期（R5年12月～R6年2月）「全漁法」の漁獲量は58トンで過去20年間で16位、「たこつぼ漁」の漁獲量は52トンで過去20年間で16位となり、不漁水準でした（図1）。

3. 今季のマダコ漁の予測

(1) 来遊時期と水温の関係

本県への「渡りダコ」の来遊は、秋～冬に親潮系冷水が三陸～常磐海域を南下することと関連していますが、親潮系冷水は黒潮に阻まれ、南下する兆しは見えません。

また、黒潮が立ち上がっていることで、本県の141°E以西の表面水温は比較的高い状態（18～20℃台、平年差+0～2.5℃）になっています（図2）。

(2) 他県の漁模様

宮城県では、9～11月に100トン程度の漁で、昨年を下回る漁模様になっています。福島県では、10～11月に30トン程度の漁で、昨年を上回る漁模様になっています（図3）。

また、岩手県では昨年の豊漁と異なり、11月に入って例年並みの漁模様になっています。

今年は、マダコ幼生が北上回遊する春頃、黒潮が強勢で「渡りダコ」となるマダコ資源が南三陸以南の海域に分散しやすい条件は整っていましたが、産卵に向かう「渡りダコ」が2年連続で減少傾向にあり、今年の岩手、宮城の漁獲量からも資源水準はさほど高くないと推察されます。

(3) 今季の盛漁期の来遊・漁況予測

今のところ常磐海域の水温が高いことから「渡りダコ」の来遊は遅れるものと考えられます。今後、水温が低下すれば「渡りダコ」の来遊が期待できますが、資源水準もさほど高くないと推察されるので、昨年、一昨年並の漁模様で、不漁水準になると予測します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

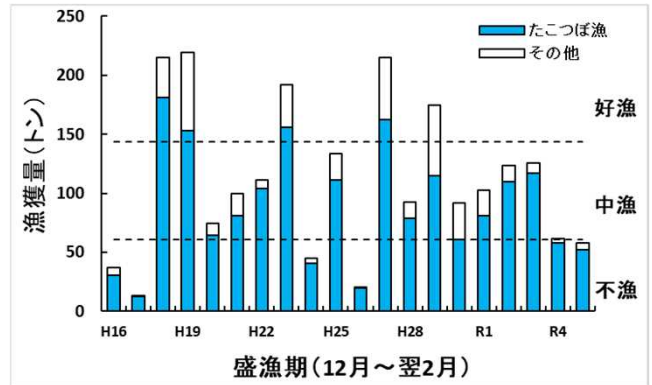


図1 茨城県の盛漁期（12月～翌2月）におけるマダコ漁獲量の経年変化（全漁法）

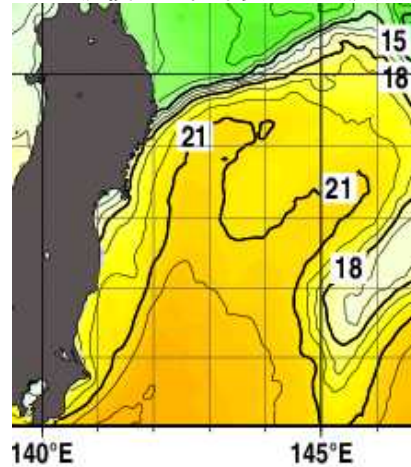


図2 12月2日の表面水温「気象庁」海洋の健康診断表より

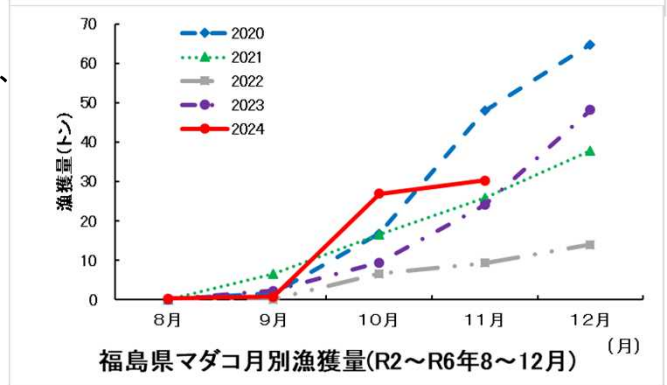
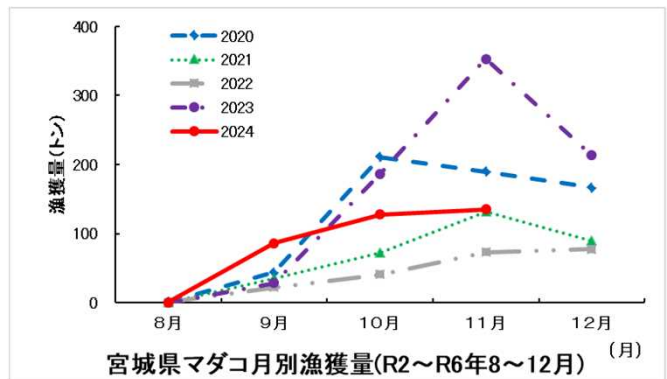


図3 2020～2024 (R2～R6年11月) 年8月～12月のマダコ月別漁獲量
(上段：宮城県「宮城水産ナビ」
下段：福島県「福島県漁海況速報」より)

令和6年のアワビ漁況

1. 令和6年の漁模様

本県のアワビ漁は6～10月にかけて、主に素潜りで行われます（10月は特別採捕許可による操業）。今漁期の漁獲量は17.7トンで、前年を大きく上回りました（前年比153%、図1）。1日あたりの漁獲量（kg/日）は前年並の95.8kg/日となりました（前年比106%、図1）。昨年は一時的に漁獲量が減少し、資源状況の悪化が危惧されましたが、今年は「昨年より貝が多く見える」「昨年よりも肉厚」といった漁業者の声が聞かれました。一方、今年は8月以降、相次ぐ台風や濁りの影響で操業できない日が多く、操業日数は6、7月に極端に偏る結果となりました（図2）。

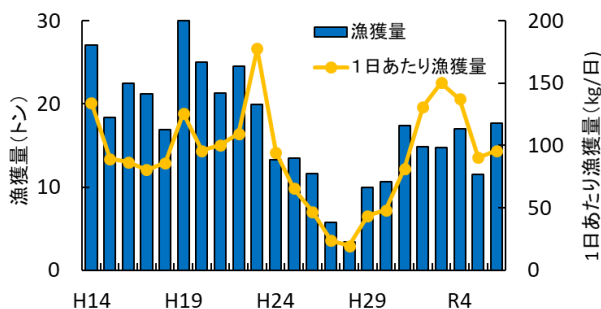


図1. 茨城県におけるアワビ漁獲量と1日あたり漁獲量の推移

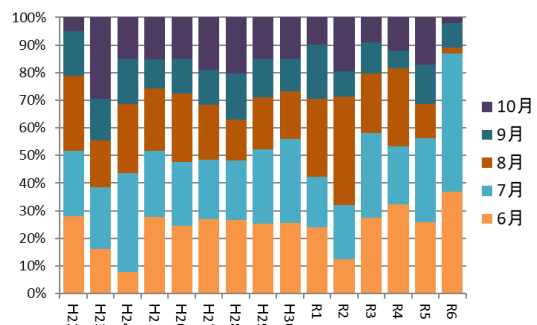


図2. アワビ漁業の月別操業比率

2. 種苗放流の効果

本県のアワビ資源は天然と人工種苗（放流貝）が由来となっており、毎年約24～30万個の人工種苗が放流されています。人工種苗のアワビは殻の頂点付近（若い頃の殻）が緑色で、天然貝と見分けることができます（図3）。



図3. 天然と人工種苗の見分け方. 人工種苗は矢印で示す殻の頂点付近が緑色になっている。

水産試験場では、毎年漁獲されたアワビに人工種苗がどの程度含まれているかを調査しています。今年の人工種苗の割合は5.6%で、低かった昨年よりさらに減少しました（前年比42%、図4）。ただし、上述のとおり8月以降はほとんど操業がなく、昨年に比べると標本数が少なかったことから、本当に人工種苗の割合が減少しているのか、今後検証する必要があります。

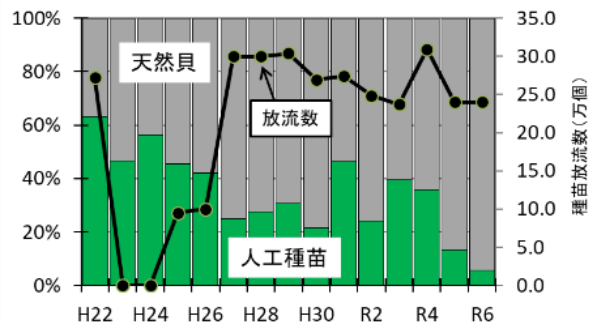


図4. 漁獲物に占める人工種苗の割合と種苗放流数の推移. 放流種苗の漁獲は放流から約3年後以降となる。

水産試験場では、アワビ資源の維持・増大を図るために必要な調査や分析を実施し、適切な資源管理をサポートできるよう引き続き取り組んでまいります。

（定着性資源部 多賀 真）

【次回予告】 令和6年12月13日発行の水産の窓は「令和6年12月の海況と今後の予測」を予定しています。